

合材バーナー燃料に 廃食油とA重油混焼

日本道路

日本道路は25日、長崎県大村市の長崎合材センターで、アスファルトの製造過程で使用するバーナー燃料を廃食油とA重油の混焼に転換すると発表した。同社初の試み。A重油と廃食油を6対4の割合で使用し、従来のA重油専焼に比べ約38%の二酸化炭素(CO₂)排出量を削減する。2024年1月10日に開始する。25年までに全国の20工場でも導入を予定。グループの年間CO₂排出量の約11

%に相当する1万1000トの削減を見込んでいる。廃食油は全国油脂事業協同組合連合会(全油連)の協力で安定的に供給される。

同社は製造販売部門で廃食油のほかにグリーンアンモニアやバイオ燃料との混焼など幅広く検討する。グループ環境ビジョン「Nichido Blue & Green Vision 2050」の目標や、環境省が環境保全に取り組む先進企業を認定する「エコ・ファースト企業」の約束として制定した50年のカーボンニュートラル(CN)実現に向け、さらに取り組みを強化する。

